

1年 道徳

主題名	がんばりつづける力
中心内容項目	A-5 主として自分自身に関すること（希望と勇気、努力と強い意志） こぐまの らっぱ
	平成30年 10月5日 5校時
	児童 1年 1組 19名
	授業者 永井 悠介

1 主題設定について

本時でとりあげる内容項目は、「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」である。

勉強や仕事を「しっかりと行う」とは、強い意志をもって粘り強くやり続けることであるが、そのためには「自分のやらなければならないことは何か」「なぜ、それをやらなければならないのか」がわかっていることが大切である。人から言われていやいや努力を継続することや、悪だくみを成功させるために努力を積み重ねるという行為は「しっかりと行う」には含まれない。

A-5の内容項目を読むと、低・中・高学年に上がるにつれて、「他律-自律-自立」という系統性が感じられる。1年生の児童なりに「褒められたり、認められたりするためではない“努力”の意味」を考えさせることを通して、やり遂げたときの「喜び」や「充実感」に気付かせていく必要がある。

2 他教科・他領域や日常指導などとの関連

日常的に自分の行いと心のもとについて考えることを大切に指導している。

- ・学級テーマ… 3本の柱の一つとして、「自分のところがスマイル」を掲げ、言動が自分自身の成長や心の満足感につながっているかについて考える取組を行っている。
- ・スマイル発表 朝の会のスマイル発表において、子どもたちが互いの頑張りや気付き、認め合える場を設定している。

3 児童の実態

児童は、教師から言われたことを素直に受け入れたり、自分の興味あることには進んで取り組んだりすることができる。毎日の宿題や音読カードにも全員が継続して取り組むことができている。一方で、低学年は他律的な時期であると言われるように、物事に目的意識をもって努力するという主体的な生活に結びついていないことも多い。

「こぐまの らっぱ」を通して、こぐま君がやり遂げたときに感じた「できるようになった喜び」「人が喜んでくれた喜び」や「努力した自分に気付ける達成感」について考えることで、「1年生なりの主体的な努力」へと考え方を発展させることができ、ねらいに迫ることが可能であると考えられる。

事前アンケート調査

いま、がんばっていることはありますか。	ある……19人 ない……0人
「ある」ひとは、どんなことをがんばっていますか。	・勉強……5人 ・当番活動……5人 ・お手伝い……5人 ・水泳……4人 ・鍵盤……モニカ、エレク……1人
がんばっているとどんなよいことがありますか。	・褒められる（から、うれしい）……4人 ・～をもらえる ……3人 ・感謝される ……2人 ・できるようになる……2人
がんばっていることを やめたいとおもったことはありますか。	ある……9人 ない……9人 (理由) つらいときにやめたい。むずかしいときにやめたい。

4 教材分析

行為・行動	心
顔を真っ赤にしてラッパをふく	・みんなができていないのに、じぶんだけできないことで、はずかしい。 ・できるようになるぞ ・うまくならないから ・みんなの迷惑になる
夜まで練習 ラッパをふくのをやめよう 家の前に座る	↓ ・迷っている。悩んでいる。
小鳥の会話	↓ ・演奏会でいい演奏をしたい ・みんなのために頑張りたい ・うれしい ・練習してよかったな
練習を始める	
演奏会で大きな拍手 ためぎとりすが喜び	

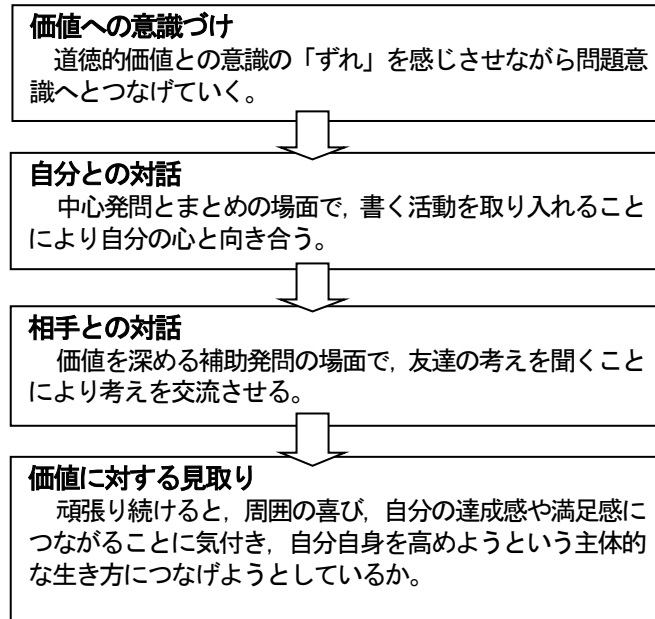
こぐま君が再びラッパの練習を始めたのは、「演奏会に来てくれる人、音楽隊のメンバー、そして自分が満足するため」という心から生まれていると読んだ。授業では、しっかりと行うことがいいことにとどまるのではなく、この心まで理解させたい。また、演奏会が成功した時に感じた「うれしい」は、音楽隊の仲間や観客から認められただけではないと考えられる。こぐま君を喜びに導いたものは何なのかについても考えたい。

5 総合単元ユニットとの関係（体験的な道徳との関わり）

かけはし活動や学芸会などの活動、道徳の時間での学習を通して、自分のため、集団のため、活動の成功のために自分ができることを精一杯しようとする心情を高める。

6 自分の心と向き合う道徳

【思考の流れとなる手だて】



8 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・自分のやるべきことの意味を考え、辛いことや苦しいことにくじけず、自分自身を高めていこうとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり
体験を想起する	1 問題意識の共有化 ○みなさんは、どんなことを頑張っていますか。 ・漢字の勉強を頑張っています。(勉強に関すること) ・朝学習当番を頑張っています。(仕事に関すること) ・水泳で、25m泳げるようになっています。(学校以外でのこと) ⇒みなさんには、頑張っていることがたくさんあるんですね。 ○何のために、頑張っているのですか。(頑張っていると、どんなよいことがありますか。) ・家族や先生から褒められるためです。(他者承認) ・「～が」できるようになるために頑張っています。(目標達成) (子どもたちを頑張りへ導く“心”について整理し、問題意識につなげるようにする) ⇒褒められず、成果が出ないときは、頑張り続けることをやめた方がよいですね? ○教材「こぐまの らっぱ」を通して、頑張り続けることのよさについて考えてみましょう。	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり ●素直な子どもたちの意見を引き出せるような雰囲気づくり。 ◎子どもたちが生活経験と結びつけて考えたことと、ねらいとする道徳的価値についての意識の「ずれ」を感じさせ、問題意識を共有化させる。 ●「お話の中に、どんな頑張りがあるかな?」と、教材をよむ視点を与える。
	2 教材「こぐまの らっぱ」を読んで話し合う ○この話に「頑張っている人」はいましたか。どんなことを、頑張っていましたか。 (教材を読みながら、絵カードを貼り、内容理解を手助けする) ・こぐま君がラッパをふくのを頑張っています。 ⇒うまくなりたと思って、夜まで練習をしているからです。 ⇒途中であきらめても、また練習を始めたからです。 ⇒最後には、いい演奏をしたからです。 ○こぐま君が練習をやめようとしたのは、どうしてですか。 (導入での問題意識とつなげるようにする) ・練習しても上手にならないからです。努力を続けても無駄だと思ったからです。 ・音楽隊のみんなに、迷惑がかかると思ったからです。 ・他のことを頑張ろうと思ったからです。	◎子どもたちが教材の登場人物に共感しながら内容を理解できるように、子どものつづきや疑問を共有化しながら読み進める。 ●こぐま君の置かれている状況や言動、言動を生む心が分かりやすいように板書を図式化し、子どもたちの思考を助けるように構成する。その際、子どもたちが板書に参加するように促す。 ◎自分との対話 ワークシートに自分の考えをまとめる。その後、記述をもとに自分の考えを全体に発表させるようにする。
	◎小鳥さんから話を聞いたこぐま君が練習をはじめたのはどうしてですか。 ・演奏会に来てくれる人のために頑張ろうと思ったからです。 ・自分が引き受けたラッパの役割をしっかりと果たそうと思ったからです。 ・このままでは、自分がダメになると思ったからです。 ⇒周囲の「喜び」や自分自身の「達成感」が次につながっていくことに目を向けさせていく。 ○発表会が終わって「疲れた」ではなく、「うれしい」と感じたのはどうしてでしょうか。 ・お客さんやメンバーから認められたことがうれしかったからです。 ・ラッパの役割をやり切ったことがうれしかったからです。	□道徳的実践力(ワークシート・発表) 自分のやるべきことをしっかりと行うことのすばらしさがわかったか。 □道徳的心情(ワークシート・発表) 辛いことや苦しいことにくじけず、自分自身を高めていこうとするこぐま君の姿に心を動かすことができたか。
	3 自分の心と向き合い、価値を深める ○今日の学習で考えた、「頑張り続けることのよさ」を短い言葉で表してみましょう。 ・頑張り続けると、できることが増えて、自分がうれしくなります。 ・頑張り続けると、周りの人もうれしくなります。	◎相手との対話 友達の意見を聞きながら、様々な考え方にふれ理解を深める。
4 本時のまとめをする ○今日学んだことは何でしょうか、これからの生活に生かせることはありますか。 ※ 本時の学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。	□道徳的実践意欲(ワークシート) 自分自身を高めていこうとする力は自分にもあり、その力を使って頑張っていることを続けていこうとしているか。	
4 本時の展開 1 問題意識の共有化 ○みなさんは、どんなことを頑張っていますか。 ・漢字の勉強を頑張っています。(勉強に関すること) ・朝学習当番を頑張っています。(仕事に関すること) ・水泳で、25m泳げるようになっています。(学校以外でのこと) ⇒みなさんには、頑張っていることがたくさんあるんですね。 ○何のために、頑張っているのですか。(頑張っていると、どんなよいことがありますか。) ・家族や先生から褒められるためです。(他者承認) ・「～が」できるようになるために頑張っています。(目標達成) (子どもたちを頑張りへ導く“心”について整理し、問題意識につなげるようにする) ⇒褒められず、成果が出ないときは、頑張り続けることをやめた方がよいですね? ○教材「こぐまの らっぱ」を通して、頑張り続けることのよさについて考えてみましょう。	◎子どもたちが生活経験と結びつけて考えたことと、ねらいとする道徳的価値についての意識の「ずれ」を感じさせ、問題意識を共有化させる。 ●「お話の中に、どんな頑張りがあるかな?」と、教材をよむ視点を与える。	
2 教材「こぐまの らっぱ」を読んで話し合う ○この話に「頑張っている人」はいましたか。どんなことを、頑張っていましたか。 (教材を読みながら、絵カードを貼り、内容理解を手助けする) ・こぐま君がラッパをふくのを頑張っています。 ⇒うまくなりたと思って、夜まで練習をしているからです。 ⇒途中であきらめても、また練習を始めたからです。 ⇒最後には、いい演奏をしたからです。 ○こぐま君が練習をやめようとしたのは、どうしてですか。 (導入での問題意識とつなげるようにする) ・練習しても上手にならないからです。努力を続けても無駄だと思ったからです。 ・音楽隊のみんなに、迷惑がかかると思ったからです。 ・他のことを頑張ろうと思ったからです。	◎子どもたちが教材の登場人物に共感しながら内容を理解できるように、子どものつづきや疑問を共有化しながら読み進める。 ●こぐま君の置かれている状況や言動、言動を生む心が分かりやすいように板書を図式化し、子どもたちの思考を助けるように構成する。その際、子どもたちが板書に参加するように促す。 ◎自分との対話 ワークシートに自分の考えをまとめる。その後、記述をもとに自分の考えを全体に発表させるようにする。	
◎小鳥さんから話を聞いたこぐま君が練習をはじめたのはどうしてですか。 ・演奏会に来てくれる人のために頑張ろうと思ったからです。 ・自分が引き受けたラッパの役割をしっかりと果たそうと思ったからです。 ・このままでは、自分がダメになると思ったからです。 ⇒周囲の「喜び」や自分自身の「達成感」が次につながっていくことに目を向けさせていく。 ○発表会が終わって「疲れた」ではなく、「うれしい」と感じたのはどうしてでしょうか。 ・お客さんやメンバーから認められたことがうれしかったからです。 ・ラッパの役割をやり切ったことがうれしかったからです。	□道徳的実践力(ワークシート・発表) 自分のやるべきことをしっかりと行うことのすばらしさがわかったか。 □道徳的心情(ワークシート・発表) 辛いことや苦しいことにくじけず、自分自身を高めていこうとするこぐま君の姿に心を動かすことができたか。	
3 自分の心と向き合い、価値を深める ○今日の学習で考えた、「頑張り続けることのよさ」を短い言葉で表してみましょう。 ・頑張り続けると、できることが増えて、自分がうれしくなります。 ・頑張り続けると、周りの人もうれしくなります。	◎相手との対話 友達の意見を聞きながら、様々な考え方にふれ理解を深める。	
4 本時のまとめをする ○今日学んだことは何でしょうか、これからの生活に生かせることはありますか。 ※ 本時の学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。	□道徳的実践意欲(ワークシート) 自分自身を高めていこうとする力は自分にもあり、その力を使って頑張っていることを続けていこうとしているか。	

(3) 本時の評価

- ・自分のやるべきことの意味を考え、辛いことや苦しいことにくじけず、自分自身を高めていこうとする意欲をもつことができたか。